

令和元年度 教育研究（研修）の充実に関する研究グループ活動報告

1 教育研究（研修）グループ組織

	道徳班	外国語・英語班	体育・保健体育 研修情報交流班
グループ主任	堀江 充（名寄南小）		
副主任	橋 早智子（智恵文小）		妹尾 洋美（智恵文中）
研究主任	澤田 克之（名寄小）		
副主任	長岡 勇樹（名寄西小）	塩満 義史（風連中）	尾崎 雄一（風連中央小）
委員	水間 達也（名寄小）	小西 潤子（名寄南小）	中嶋清太郎（名寄東小）
	東 優花（名寄西小）	経塚 秀行（風連中央小）	高橋 理（名寄中）
	吉本陽之介（名寄東中）	鬼原 善彦（風連中）	房川 亜侑（智恵文中）

2 研究内容

■新たな課題に対応できる力量を高める研修

- 「特別の教科道徳」にかかわる評価のあり方について（調査、事例集の作成）
 - ・道徳科の評価
- 道徳科の読み物資料（木原秀雄氏）を使用した授業実践の構築と資料の修正、改善
- より実践的な外国語活動、外国語等の授業研究

■体育、保健体育の充実

- 体力・運動能力調査の結果・分析を踏まえた研修の実施
 - ・より実践的な体育、保健体育の授業研究

【道徳班】 道徳科に関して	【外国語・英語班】 外国語教育に関して	【体育実技研修・ 研修情報交流班】 体育科、保健体育科に関して
<ul style="list-style-type: none"> ○道徳指導について研修の深化 ○道徳の評価について ○道徳新教材（木原天文台）の開発 ○道徳授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の授業展開について研修の深化 ○外国語授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育科授業の充実 運動能力・生活習慣等調査の分析、活用・SC 課事業との連携 研修の情報交流 ○各校の研修交流と研修計画一覧作成

3 今年度の活動経過

年	月	日	道徳班	外国語科班	保健・体育班
31 元	4	25	□第1回教育改善プロジェクト委員会（名寄市役所） ●教育研究グループ会議		
	5	22	□第2回教育改善プロジェクト委員会 ●年間活動計画の提示 ☆道徳評価について交流		
		24	—————→		☆各校研修計画一覧配布
		28	—————→		☆新体力テストに関わる研修会（名寄西小） ○名寄西小体育館 ○走力（50メートル走）等の課題のあった項目に関わる効果的な指導
	6		☆道徳教材～第1次打診（委員会）内容構成検討① ☆道徳教材～内容構成検討②		
	8	30	☆第1回道徳指導案検討（西小）		
	9	5	☆第2回道徳指導案検討（西小）		
		10 13	☆公開授業 ○智中 房川先生		☆各校研修計画一覧配布
	10	17	—————→	☆外国語評価研修 風連中	
		29	—————→ ☆成果と課題の検討 来年度に向けての指針確認	☆公開授業 ○南小 尾崎先生 ☆成果と課題の検討 来年度に向けての指針確認	☆成果と課題の検討 来年度に向けての指針確認
11	18	名寄市教育研究大会（名寄小 名寄東中）			
12	10	□第3回教育改善プロジェクト委員会	☆各校研修計画一覧配布		
2	1	28	名寄市教育研究集会 EN-RAYホール		

4 今年度の活動

(1) 各校研修計画一覧配布

資料1

- 1) 成 果：○各学校の研修計画を一覧にして提示することで、共有が図られた。
- 2) 課 題：▲年3回の配信であったが、各校の研修日程を確認し、タイムリーに情報を発信する必要があった。

(2) 新体力テストに関わる研修会

資料2

- 1) 参加者：名寄市内小学校教員、中学校の体育科担当教員等 合計53名
- 2) 成 果：○講師として招いたアスレチックトレーナーのマイクル・ハルボーセン氏の説明は大変わかりやすく、指導技術等において知識を深めることができた。日常の授業実践に生かせる内容が多くあった。
○体力テストの結果分析を踏まえた実技研修を実施することができた。講師を招いて効果的な指導法について学ぶことができた。また、実技研修会を通して、トレーナー事業についての理解が深まり、積極的に活用することができた。
- 3) 課 題：▲期日については肯定意見が多かったが、小学校での運動会の取組が始まる前に実施できると効果が高いと考えられる。
▲講師の招聘や場所、時期、授業時数等を中心に総合的に検討し、より参加しやすい体制づくりを考えなければならない。



(3) 名寄市新体力テスト集計結果

資料3

学年	観点	成果	内 容
小5男子	全種目の全国比較	▲	8種目中5種目が平成30年度の全国平均値を下回っている。
	50m走の全国比較	▲	50m走は平成30年度の全国平均値より下回った。
	50m走の取組	○	昨年度からの平均値の伸びは、全国の伸び（H30年度資料）よりも上回った。しかも、過去2か年の平均値の伸びも、全国の2か年の伸び（H30年度資料）よりも上回った。
小5女子	全種目の全国比較	○	8種目中6種目が平成30年度の全国平均値を上回っている。
	50m走の全国比較	▲	50m走は平成30年度の全国平均値より下回ったが、かなり全国に近づいた。
	50m走の取組	○	昨年度からの平均値の伸びが、全国の伸び（H30年度資料）よりも上回った。
中2男子	全種目の全国比較	▲	8種目中4種目が平成30年度の全国平均値を下回っている。
	50m走の全国比較	▲	50m走は平成30年度の全国平均値より下回った。
	50m走の取組	○	昨年度からの平均値の伸びは、全国の伸び（H30年度資料）よりも上回った。
中2女子	全種目の全国比較	○	8種目中6種目が平成30年度の全国平均値を上回っている。
	50m走の全国比較	▲	50m走は平成30年度の全国平均値より下回った。
	50m走の取組	○	昨年度からの平均値の伸びも、全国の伸び（H30年度資料）よりも上回った。

【考 察】

令和元年度新体力テスト全種目とH30年度の全国比較をすると、課題は50m走とシャトルランである。また、立ち幅跳びが小中学の男子の課題である。また、ボール投げが小学男女の課題である。「50m走」については、H29年度から2年間、教育改善P委員会で取組を行ってきたことで、全国平均値に少しずつ近づいている。本年度は、全国の伸び（H30年度）をすべての学年で上回る結果が出ている。特に、小学生女子は、本年度の平均値が0.88秒もタイムが伸びており、全国平均にかなり近づいた。今後も50m走の課題克服を継続し、50m走（走力・スピード）を意識した体力向上の具体的な取組を進めていく。

(4) 道徳科公開授業

資料4・5

- 1) 参加者：名寄市内小中学校教員 合計26名
- 2) 授業者：名寄市立智恵文中学校 房川 亜侑 教諭 (T1) 築瀬 豊 教諭 (T2)
茶谷 裕樹 教諭 (T3) 牧野 巧 教諭 (T4)
- 3) 生徒：第2学年生徒 12名
- 4) 成果：○「木原秀雄」氏の読み物資料ができ、全校に配付することができた。
○授業の流れを全体（市内の小中学校）で共有することができた。
- 5) 課題：▲評価について小中学校の実情を交流することはできたが市内で統一した表記の仕方等までは至らなかった。
▲「木原秀雄」氏の読み物教材を内容項目「勇気と希望」で授業研究を行うことができたが、複数回授業を行うことで、学習過程を確かなものにしていくことが望ましい。



(5) 外国語評価研修

資料6

- 1) 参加者：名寄市内小中学校教員 参加者20名
- 2) 成果：○各学校の実践交流を通して、様々な外国語科の評価方法について学ぶことができた。
○小中の先生を交えた話し合いにより、外国語の評価について現状や課題を知ることができた。
- 3) 課題：▲新学習指導要領の観点別学習状況について理解が深まっていない。
▲新年度に向けて、評価方法や評価基準についてさらに研修を深めていかなければならない。



(6) 外国語活動公開授業

資料7・8

- 1) 参加者：名寄市内小中学校教員 参加者32名
- 2) 授業者：名寄市立名寄南小学校 尾崎 久美 教諭
- 3) 児童：第4学年児童 40名
- 2) 成果：○クラスルームイングリッシュなど効果的な指導方法を学べた。
○南小学校の実践を通して、実践的な授業づくりについて学ぶことができた。スクールイングリッシュを中学校と連携して作成しているという実践を名寄市内で共有してほしい。
- 3) 課題：▲研修の成果を各学校において確実に還元していく必要がある。
▲外国語科における円滑な接続を目指し、各中学校区ごとに小中授業交流を推進していく必要がある。



5 来年度に向けての成果と課題

- ・木原氏の道徳教材については、表現等の修正と内容項目について整理すると共に、指導事例を作成し、名寄市内全中学校の教育課程に位置づけをする。
- ・外国語科については、教科指導の連続性という観点から指導内容や評価方法等、更に小中の連携が必要である。
- ・体育実技研修については、新体力テストの結果に成果として現れているのか検証が難しい。課題とされている種目をピックアップし日常の指導法やテスト時の計測の仕方について研修を深めた方が効果的か。
- ・改善プロジェクト全体に関わる内容で、研修内容の還流方法の工夫が必要。